

- ・障害者の権利擁護活動や就労支援活動を実施（2008年設立）
- ・大学研究者、弁護士、医師、教師、ジャーナリスト、障害福祉事業者、親など、学際的・実践的メンバーで構成。
- ・全国各地に安全確保・権利擁護のためのネットワークP&Aを立ち上げ。P(プロテクション) アンド A(アドボカシー)。
- ・権利擁護・成年後見情報誌「PandA-J」を発行し、市民や親、当事者にわかりやすい情報提供を行い、理解推進の基盤整備や障害者虐待防止法の啓発にも寄与。
- ・「共生社会を創る愛の基金」との連携により、触法の障害者の支援等に関する研究活動や、地域における多職種連携による危機介入支援ネットワークであるTS(トラブルシューター)養成にも着手。
- ・英国ケント大学教授や、プリズンリフォームトラストの研究者、実践家との共同研究を行い、生きづらさを抱えた障害者のための性的問題行動からの離脱学習プログラム(SOTSEC-ID, Keep Safe)開発の実施。



「セルフアドボカシー支援に向けたキャリア教育と地域包括支援プログラム」の構成 ～対象者の目指す人生目標(グッドライブズモデル)、障害特性、リスクに応じた介入(支援)～

①【中リスク対応型学習プログラム】

「KEEP SAFE」(ySOTSEC-ID)
性問題行動を揺する青少年と保護者に向けたグループ学習プログラム(英国ケント大学博士との共同研究)

- <対象>
- ・12歳から成人までの問題行動リスクが中程度の方
 - ・1グループ3～5人
- <実施期間>
- ・4ヶ月から1年半(週1回、1回2時間)
- <内容>
- ・モジュール1: プログラムについて、ルール作り
 - ・モジュール2: 心と体の成長の変化、関係性、境界
 - ・モジュール3: 自己の寛容の理解・感情のコントロール
 - ・モジュール4: 自分の行動を理解する
 - ・モジュール5: 共感と結果の予測
 - ・モジュール6: 「私のKeep Safe計画」の作成
～前に進むための準備～
 - ・保護者向けセッション

<実施会場>
東京多摩、盛岡、仙台、奄美、名古屋児童相談所にて実施
※その他、プログラム開発委員会を組織し、ニーズに応じたプログラムづくりに着手

②【地域包括支援のモデル基盤の構築】

全国各地のトラブル・シューター(以下TS)ネットワークと連携した**地域連携協議会**を実施。全国縦断的な連携協議会の発足に向けて準備を開始。

<ネットワークの構成メンバー>
福祉専門職、研究者、特別支援学校教諭、保護者、更生保護施設職員、矯正施設職員、福祉施設職員、弁護士

<2018実施地区と特徴>

地域	特徴(核となる組織と連携体制)
石狩TS 多摩TS	○ 本人部会 +相談支援センター ○ B型事業所 +相談支援 +地域の他職種連携
新潟TS 沖縄TS	○ 基幹相談支援センター +地域の他職種連携
盛岡TS 香川TS	○ 発達障害者支援センター +地域の他職種連携
名古屋TS 奄美大島TS	○ 児童相談所コア +地域での支援 ○相談支援+ 特別支援学校 +地域の他職種連携

③【FT(ファシリテーター)支援者養成プログラム】

発達障害者支援センター、基幹相談支援センター、地域生活定着支援センター、社会教育機関などとの連携により、多職種連携のトラブル・シューター・ファシリテーター養成講座を全国で展開。

<実施期間>
・2日間

④【低リスクの本人向け学習プログラムの開発】

「暮らしのルールブック」活用による
グループ学習プログラム
(障害者雇用企業支援協会等の作成協力)

<対象>

- ・知的障害・発達障害のある青年期、成人期の方
- ・1グループ3～5人

<実施回数等>

- ・週1回または隔週1回、1回2時間
- ・1クール3～5回

<実施会場>

- ・新潟、多摩、沖縄、石狩にて実施